

平成30年6月4日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463222

研究課題名(和文) 臨床倫理における看護師の役割と支援システムの構築

研究課題名(英文) The role of nurses and needs for clinical ethics support in healthcare setting

研究代表者

宮脇 美保子 (MIYAWAKI, Mihoko)

慶應義塾大学・看護医療学部(藤沢)・教授

研究者番号：10263493

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：看護師は患者の擁護者としての役割が期待されているが、医療現場ではさまざまな倫理問題に直面している。本研究の目的は、医療現場における看護師の役割と倫理的支援の必要性を明確にすることである。調査の結果、看護師の倫理的役割には3つのテーマ、患者の意向を尊重する、患者が自分の考え、価値観、感情を表現することを支援する、医療チームで情報を共有し、価値を調整するが、必要な倫理的支援として、医療職間の円滑なコミュニケーション、臨床倫理相談サービス、倫理的ジレンマの解決に役立つ継続教育が抽出された。看護師は、倫理的問題に対処できるプログラムと実践のための資源を必要としている。

研究成果の概要(英文)：Nurses are expected to act as patient advocates but they face a variety of ethical issues in daily clinical practice. The present study was conducted to illustrate clearly the role of nurses and needs for clinical ethics support in healthcare setting. Qualitative research was conducted using semi-structured interviews. As a result, three themes were identified of the role of nurses for clinical ethics: respecting the intentions of patients, supporting patients to express their own ideas, values and feelings, sharing information, and adjust their own ethical value in health care team. Also, three themes were identified of nurses needs for ethical support: timely communication about ethical issues with peer professional colleagues, clinical ethics consultation service to assist the front line staff, and preventive ethical conflict through continuing education. Nurses require the resources to implement structures and programs that support ethics.

研究分野：医歯薬学

キーワード：臨床倫理 看護師の役割 倫理的問題 倫理支援システム

## 1. 研究開始当初の背景

高度に専門分化し、複雑化している臨床現場において、看護師はさまざまな倫理的問題に直面しているが、こうした問題への対処は個人的努力だけでは限界がある。例えば、看護師が患者のことを第一に考えようとしても、他職種と話し合うことが難しいといったチームとしての医療サービスが提供されていないことがある。また、看護師は「何かおかしい」「これは患者の利益にはならない」ということを直観的に認識したとしても、それを倫理的視点から論理的に説明することについての苦手意識があり、問題解決に向けてチームを巻き込んでいくための戦略をもっていないのが現状である(宮脇、2008)。

しかし、こうした課題はあるものの、チーム医療の中で患者の QOL について検討し、自己決定を支援するには、看護師がもつ「生活者」としての患者情報は極めて重要である。今後は、看護師が適切かつタイムリーに収集した情報を他職種と共有し、同じ土俵で看護専門職の立場から対等に話し合うことができるようになることが期待される。では、医療現場において、看護師は倫理的役割をどのように認識しているのか、またその役割を果たす上でどのような倫理的支援を求めているのだろうか。まずは、このことを明らかにする必要がある。

## 2. 研究の目的

(1) 倫理コンサルテーションが進んでいる海外の医療施設を視察、および国内で準備が進んでいる医療コンサルテーションの構築に向けた会議に参加し、情報収集と意見交換を行う。

(2) 看護師が倫理的問題に対応していく上で期待される役割とその責任を引き受けていく上でどのような倫理的支援を必要としているのかを明らかにし、支援のありかたについて検討する。

## 3. 研究の方法

### (1) 情報収集、意見交換

米国の医療施設を訪問し、倫理コンサルテーションの組織的取り組みと看護師支援についての情報収集および意見を交換した。

### (2) インタビュー調査

#### 研究参加者

師長を除く 300 床以上の病院に勤務する臨床経験 5 年以上の看護師を対象とした。

#### インタビュー内容・時間

看護師はチーム医療の中で倫理的問題の解決に向けての役割をどのように認識しているか、またそのためにどのような支援を必要としているかについて、60 分程度の半構成的インタビューを行った。

#### データ分析

インタビューとデータ分析を並行して行った。参加者の語りから倫理的役割と必要な支援について語っている箇所を抽出し、浮かび上がるテーマ(themes)を抽出した。

#### 倫理的配慮

本研究は、研究代表者の所属機関に設置されている研究倫理審査会で承認を受けて実施した。実施に際しては、研究参加候補者の研究参加に対する自由意思の尊重、同意の撤回、プライバシーの厳守などについて配慮した。

## 4. 研究成果

### (1) 情報収集、意見交換

#### 第 1 回海外の病院視察

2015 年 8 月 29 日 ~ 9 月 2 日

米国 MedStar Washington Hospital を訪問した。Center for Ethics の倫理コンサルトチームとともに臨床倫理回診に同行し情報収集および意見交換した。MedStar Washington 病院は、早期に倫理コンサルテーションを導入した経緯があるためか、複数の部署で行われた倫理回診に同行したが、コンサルトと医療職者、患者、家族との信頼関係が成立していることに感動を覚えた。

また、回診には、医師とともに倫理コンサルタントとMSW(Medical Social Worker)が参加しており、患者を医学的視点だけでなく、倫理的、社会的視点から理解しようとしており、意義深いカンファレンスが行われていた。

#### 第2回視察

2018年3月19日～23日

米国 University of California, San Diego Medical Center を訪問し、倫理コンサルテーション室の責任者、クリティカルケア病棟病棟長、クリティカルケア認定看護師の3人にインタビューした。現在、2人の看護師が倫理コンサルタントとして配置されている。主な内容は次のようなものであった。

- ・コンサルテーションの依頼は、電子カルテ上のフォーマルな依頼とともに、メール、電話による相談にも応じていた。

- ・コンサルタントは異なる職種で構成されており、患者にとって何がよいことなのかという観点からそれぞれが発言しており、価値の調整をすることに大きな困難は感じていないということであった。

- ・コンサルタントの教育はOJT(On the Job Training)で行われており、フォーマルな教育を受けることを強制はしていないが大学院も近いと受講する者もいるということであった。

- ・役割上で陥りやすい問題は倫理コンサルテーションで検討すべきものと、医療安全で扱う事案を混同することである。

- ・看護師からは、コンサルタントに看護師が配置されていることで、相談の意図を正確に理解してくれるように思えるため助かっているという声もあった。

国内の病院倫理委員会コンサルタント連絡会議に参加し、情報収集と意見交換をした。

本会議のアジェンダは、

- ・倫理コンサルタントに関する情報収集
- ・共有、倫理コンサルテーション(臨床倫理)教育、

- ・現場および社会への発信と働きかけ
- ・倫理コンサルテーションに関するサポート
- ・倫理コンサルタントのコア・コンピテンシー提案

会議は、第1回:2015年8月23日、第2回:2016年3月21日、第3回:2016年9月22日、第4回:2018年1月21日の4回開催された。参加者のプレゼンテーションとそれを踏まえたGWを中心とした意見交換は、今後の倫理的支援の在り方を考える上で非常に有意義であった。

#### (2)インタビュー調査

##### 看護師の倫理的役割

患者の意向を尊重する 患者が自分の考え、価値観、感情を表現することを支援する 医療チームで情報を共有し、価値を調整する という3つのテーマがあった。

##### 患者の意向を尊重する

- ・高齢者、認知症、意識障害など、脆弱な人々を保護したり、エンパワーする役割について語られた。

- ・患者の家族の意向が患者の意向より優先されることのないように守る

- ・医療者が患者・家族に対して医療情報をコントロールしないようにする。

患者が自分の考え、価値観、感情を表現することを支援する

- ・患者の不利益を看過することなく、患者が自身の考え、価値観、感情を率直に表現できるように促すとともに、それができない場合は代弁する。

医療チームで情報を共有し、価値を調整する

- ・医師やその他の職種とパートナーとしての意識をもつ

- ・効率性が優先される中で、人間としての尊厳を守るケアリングが実践できる風土を醸成する。

看護師が必要としている倫理的支援

看護師が求める倫理的支援には 医療職間の

円滑なコミュニケーション 臨床倫理相談サービス 倫理的ジレンマの解決に役立つ継続教育 の3つが抽出された。

医療職間の円滑なコミュニケーション

・自分の役割と立ち位置がブレることなく、看護師間だけでなく他職種ともタイムリーかつ円滑にコミュニケーションできるような関係を形成できるコミュニケーション能力を高めるための支援を求めている。

臨床倫理相談サービス

・所属する部署での話し合いだけでは解決できない倫理的問題に対して相談できるサービスの提供を求めている。

倫理的ジレンマの解決に役立つ継続教育

・想定される倫理的ジレンマに対応するための知識や解決策などについて、学習できる機会を必要としていた。

以上、看護師は、倫理的問題に対処できるプログラムと実践のための資源を必要としていた。

### (3)今後の課題

看護師は、チーム医療における看護師の倫理的役割として、患者の権利を擁護することの重要性は認識していた。看護師は、多様な価値観が錯綜する中で、日々倫理的判断を求められている。こうした状況にあって、看護師が真に患者の利益を守るためには、外から「魚を与えてもらうだけでなく、魚の釣り方を身に着ける」ことこそが肝要である。しかし、現実には、専門職として自律しているとは言い難く、医師による上意下達が続いており、看護師としての倫理的責任を引き受けていくには個人の努力だけで解決するには限界があり、支援の必要性が示唆された。

今後は、看護師の中から倫理的問題を同定し、解決策を模索し、それを実行できる推進役になれるようなリーダーを養成することが急務であろう。そうしなければ、「これはおかしい」「モヤモヤする」「何とかしたい」と考える看護師がいても、そこから先の道筋が見えないが故に、患者の利益を守り、看護の質を向上することはできないで

あろう。

以上、看護師の中から倫理理論や事例検討のプロセス、倫理コンサルテーションの方法等を理解し、倫理実践を推進できるリーダーを養成することが可能な研修プログラムや教材等の開発が必要である。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

宮脇美保子: 今、なぜ看護倫理が大切か-看護は誰のために、何のために行うのか、Nursing Business, 11(9), 2017, 10-13(査読無)

〔学会発表〕(計1件)

Mihoko Miyawaki & Ikuko Miyabayashi: The role of nurses and needs for clinical ethics support in healthcare setting, TNMC & WANS International Nursing Research Conference, Bangkok, 2017

〔図書〕(計1件)

宮脇美保子: 看護における倫理と法(宮脇美保子編:看護学概論)、メヂカルフレンド社、2017, 181-212

### 6. 研究組織

#### (1)研究代表者

宮脇 美保子 (MIYAWAKI, Mihoko)  
慶應義塾大学・看護医療学部・教授  
研究者番号: 10263493

#### (2)研究分担者

宮林 郁子 (MIYABAYASHI, Ikuko)  
福岡大学・医学部・教授  
研究者番号: 40294334

酒見 隆信 (SAKEMI, Takanobu)  
国際医療福祉大学・福岡保健医療学部・教授  
研究者番号: 30150410